

LESSON NOTES

Advanced Audio Blog S3 #8

The Job of an Architecture Explorer

CONTENTS

- 2 Kanji
- 2 Kana
- 3 Romanization
- 4 English
- 5 Vocabulary
- 6 Sample Sentences
- 7 Grammar

8

KANJI

1. 建築探検家という職業
2. 最近は全く連絡をとっていないが、同郷の友人に坂口恭平というアーティストがいる。
3. 何を専門にしたアーティスト？と聞かれると、非常に難しく、近頃は彼も専ら建築探検家という肩書きを用いているようだ。
4. さて、この建築探検家、何を専門にしているかという、実は日本のホームレスの家とその暮らしについてなのだ。
5. 彼は元々大学で建築を専攻していて、その卒業制作で作ったホームレス建築をまとめた本を「0円ハウス」と銘打って世に送り出したのだった。
6. ホームレスの家といえど、電気は使えるし、中にはテレビやキッチン、犬小屋までついているものだってある。極端に言えば、東京の狭い、ぼろアパートより余程快適な生活を送っている者だっているのだ。これらの家々が海外では特に珍しがられて、彼の本と作品は瞬く間に世界のあちらこちらに広がっていった。
7. 「家は生き物。家は、その人そのもの。」
8. と彼が言うように、家あるいは部屋というのはその人の個性が直接現れる。
9. 皆さんはどんな空間に暮らしていますか？

KANA

1. けんちくたんけんかというしょくぎょう
2. さいきんはまったくれんらくをとっていないが、どうきょうのゆうじんにさかぐちきょうへいというアーティストがいる。

CONT'D OVER

3. なにを せんもんにした アーティスト?と きかれると、ひじょうに むずかしく、ちかごろは かれも もっぱら けんちくたんけんかという かたがきを もちいているようだ。
4. さて、このけんちくたんけんか、なにを せんもんにしているかという と、じつは にほんの ホームレスの いえと そのくらしについてなのだ。
5. かれは もともと だいがくで けんちくを せんこうしていて、そのそつぎょうせいさくで つくった ホームレスけんちくを まとめたほんを ゼロえんハウスと めいうって よにおくり だしたのだった。
6. ホームレスの いえといえど、でんきはつかえるし、なかには テレビやキッチン、いぬごやままで ついているものだってある。きよくたんにいえば、とうきょうのせまい、ぼろアパートより よほど かいてきなせいかつを おくっているものだっているのだ。これらの いえい えがかいがいでは とくにめずらしがられて、かれの ほんとさくひんは またたくまに せかいの あちらこちらに ひろがっていった。
7. 「いえは いきもの。いえは、そのひと そのもの。」
8. と かれが いうように、いえ あるいは へやというの は そのひとの こせいが ちよくせつあ らわれる。
9. みなさんは どんなくうかんに くらしていますか？

ROMANIZATION

1. Kenchiku tankenka to iu shokugyō
2. Saikin wa mattaku renraku o totte inai ga, dōkyō no yūjin ni Sakaguchi Kyōhei to iu ātisuto ga iru.

CONT'D OVER

3. Nani o senmon ni shita ātisu to? to kikareru to, hijōni muzukashiku, chikagoro wa kare mo moppara kenchiku tankenka to iu katagaki o mochiite iru yō da.
4. Sate, kono kenchiku tankenk, nani o senmon ni shite iru kato iu to, jitsu wa Nihon no hōmuresu no ie to sono kurashi ni tsuite nano da.
5. Kare wa motomoto daigaku de kenchiku o senkō shite ite, sono sotsugyō seisaku de tsukutta hōmuresu kenchiku o matometa hon o "0 en hausu" to mei utte yo ni okuridashita no datta.
6. Hōmuresu no ie to ie do, denki wa tsukaeru shi, naka ni wa terebi ya kitchin, inugoya made tsuite iru mono datte aru. kyokutan ni ie ba, Tōkyō no semai, boro apāto yori yohodo kaiteki na seikatsu o okutte iru mono datte iru no da. Korera no ieie ga kaigai de wa toku ni mezurashi gararete, kare no hon to sakuhin wa matatakuma ni sekai no achirakochira ni hirogatte itta.
7. 「Ie wa ikimono. Ie wa, sono hito sonomono.」
8. To kare ga iu yō ni, ie aruiwa heya to iu no wa sono hito no kosei ga chokusetsu arawareru.
9. Minasan wa donna kūkan ni kurashite imasu ka?

ENGLISH

1. The Job of an Architecture Explorer
2. I haven't been in touch with him lately at all, but I have a friend from my hometown who is an artist named Kyōhei Sakaguchi.
3. If you ask what he specializes in as an artist, it's incredibly difficult to give an answer. It seems as if lately he's been calling himself exclusively an "architecture explorer".

CONT'D OVER

4. Now, what does this architecture explorer specialize in? The truth is he specializes in Japan's homeless population's dwellings and their lives in these places.
5. He originally majored in architecture at university, and published his graduation project, a collection detailing the architecture of the dwellings of homeless people, as a book called "0 Yen Houses".
6. Having said that, some of these so-called "homeless houses" have electricity; some have TVs, kitchens, and even as much as a dog kennel. To take the point to an extreme, there are homeless people who enjoy a much more pleasant daily existence than if they were to live in one of Tokyo's cramped, falling-to-pieces apartments. People from outside Japan found these "homeless houses" especially curious, and suddenly Sakaguchi's book and work was finding fame all over the world.
7. As Sakaguchi would say, "A home is a living thing. A home is the person living there." A house, or a room, directly expresses one's personality.
8. What kind of space do you all live in?

VOCABULARY

Kanji	Kana	Romaji	English
同郷	どうきょう	dōkyō	same town, same village
空間	くうかん	kūkan	space, room
瞬く間に	またたくまに	matataku ma ni	instantly
珍しがる	めずらしがる	mezurashi garu	to think something a curiosity
近頃	ちかごろ	chikagoro	lately, recently
余程	よほど	yohodo	very, greatly, much
ぼろ	ぼろ	boro	tattered, scrappy, junky
極端に	きょくたんに	kyokutan ni	extremely

世	よ	yo	the world, society
まとめる	まとめる	matomeru	bring to a conclusion, put together, to collect
銘打つ	めいうつ	meiutsu	to call itself, to mark, to label
建築	けんちく	kenchiku	construction, architecture
非常に	ひじょうに	hijō ni	very, extremely
直接	ちよくせつ	chokusetsu	direct, personal

SAMPLE SENTENCES

<p>彼女と私は同郷です。 <i>Kanojo to watashi wa dōkyō desu.</i></p> <p>Her hometown and mine are the same.</p>	<p>この空間は広すぎて、落ち着けない。 <i>Kono kūkan wa hirosugite, ochitsukenai.</i></p> <p>This space is too wide-open for me to relax.</p>
<p>彼らは、瞬く間に宿題を終わらせた。 <i>Karera wa, matataku ma ni shukudai o owaraseta.</i></p> <p>They completed their homework in the blink of an eye.</p>	<p>その赤ちゃんは、初めて虫を見て珍しがっている。 <i>Sono aka-chan wa, hajimete mushi o mite mezurashi gatte iru.</i></p> <p>The baby is curiously looking at a bug for the first time.</p>
<p>近頃、よく雨が降ります。 <i>Chikagoro, yoku ame ga furimasu.</i></p> <p>It rains often lately.</p>	<p>彼がそうしたのは、よほど悲しかったからだろう。 <i>Kare ga sōshita no wa, yohodo kanashikatta kara darō.</i></p> <p>He must have been very upset to do such a thing.</p>
<p>彼のぼろオートバイは、もうそろそろ壊れそうだ。 <i>Kare no boru otobai wa, mō soro soro koware sou da.</i></p> <p>His junky old motorcycle looks like it's about to break down.</p>	<p>極端に一つのことだけをやる。 <i>Kyokutan ni hitotsu no koto dake o yaru.</i></p> <p>There is only one thing that I go all out doing.</p>

<p>新しい商品が世に送り出された。 <i>Atarashii shōhin ga yo ni okuri dasareta.</i></p> <p>The new product was sent out to the world.</p>	<p>旅行するので、今夜荷物をまとめます。 <i>Ryokō suru node, konnya nimotsu o matome masu.</i></p> <p>I'm going on a trip, so tonight I'm going to pack my luggage.</p>
<p>彼らは、「これが本物のお酒」と銘打って、日本酒を売っています。 <i>Karera wa "kore ga honmono no o-sake" to meitte, nihonshu o utte imasu.</i></p> <p>They are selling the sake as "genuine Japanese sake".</p>	<p>私の大学の専攻は建築でした。 <i>Watashi no daigaku no senkō wa kenchiku deshita.</i></p> <p>My major at university was architecture.</p>
<p>この部屋は非常に汚いです。 <i>Kono heya wa hijō ni kitanai desu.</i></p> <p>This room is extremely dirty.</p>	<p>これから直接、仕事場に行きます。 <i>Kore kara chokusetsu, shigotoba ni ikimasu.</i></p> <p>I will go directly to work after this.</p>

GRAMMAR

Natsuko: こんにちは。なつこです。Audio Blog シーズン3 第8回「建築探検家という職業」。

今回は、レッスンのダイアログでボイスアクターを担当している、チャオササキさんと一緒に、このブログについてご紹介しましょう。ササキさんは、最近リリースされたレッスンにボイスアクターとして出演されているんですよ。Upper Intermediateのコースを聞いているリスナーの方は、きっと声に聞き覚えがあると思いますよ。それでは、ササキさん、よろしくお願いします。

ササキ: こんにちは。ササキです。よろしくお願いします。

Natsuko: 今回のブログのタイトル、おもしろいですよね。「建築探検家という職業」って、いったい、どんな職業だと思います？

ササキ: う～ん、なんだろうなあ。建築家と探検家は、それぞれ別々の職業としては、わかりますけど、建築と探検が一緒になった職業ってことですよ。ジャングル探検しながら、建物を作る人ですかねえ???とにかく、とっても珍しい職業だってことしかわからないですねえ。

Natsuko: そうですよ。この肩書きだけじゃ、ちょっと当てるのは、難しいですよ。それでは、さっそく、ブログを、聞いてみましょう。

== Blog「建築探検家という職業」 ==

最近は全く連絡をとっていないが、同郷の友人に坂口恭平というアーティストがいる。何を専門にしたアーティスト?と聞かれると、非常に難しく、近頃は彼も専ら建築探検家という肩書きを用いているようだ。

さて、この建築探検家、何を専門にしているかということ、実は日本のホームレスの家とその暮らしについてなのだ。彼は元々大学で建築を専攻していて、その卒業制作で作ったホームレス建築をまとめた本を「0円ハウス」と銘打って世に送り出したのだった。

ホームレスの家といえど、電気は使えるし、中にはテレビやキッチン、犬小屋までついているものだってある。極端に言えば、東京の狭い、ぼろアパートより余程快適な生活を送っている者だっているのだ。これらの家々が海外では特に珍しがられて、彼の本と作品は瞬く間に世界のあちらこちらに広がっていった。

「家は生き物。家は、その人そのもの。」と彼が言うように、家あるいは部屋というのはその人の個性が直接現れる。皆さんはどんな空間に暮らしていますか?

=====

Natsuko: 皆さん、この坂口恭平さんがどんなことをしている人か、わかりましたか?

ササキ: ブログの中では、日本のホームレスの家と暮らしを研究している建築家だっけって言ったね。ホームレスの人というのは、いわゆる路上で生活する人のことですよ。その人たちの家を建築物として研究するというのは、いったい、どういう研究なんですかね。

Natsuko: そうですよ。ブログの中では、あまり詳しく書かれていなかったんですけど、この坂口さん、本を出版したり、Webサイトも開設していますし、あと、対談や講演なども行っていらっしゃるんですね。で、Webでちょっと検索すると、いろいろ情報収集できるんですよ。

ササキ: じゃ、もう少し詳しく教えてもらえますか。

Natsuko: 東京や大阪などの、いわゆる日本の大都市には、公園や路上で、ブルーシートと言われるようなシートやダンボールなんかで家を作って、そこで生活を余儀なくされている、そんな人たちがいるんですよ。坂口さんは、その人たちの家は、実はすごいんじゃないかって考えて、「0円ハウス」と呼んで、研究を始めたそうなんです。それで、いろいろな人たちの「0円ハウス」を見せてもらうと、全然お金をかけていないけれど、たとえば、誰かが捨てた自動車用バッテリーを再利用して電気をおこしていたり、あと、テレビとかいろいろなゴミを上手に活用して暮らしている生活術に尊敬の念を持つようになったんだそうなんです。それで、「0円で、自分が生きるために、自分の頭で考え、自力で作る家」を研究し続けているそうです。

ササキ: なるほど～。路上や公園で生活をしなくてはいけない人がいるということは、社会として問題があると思うけど、その問題を別にして考えてみると、0円で、生活できる場所を作ってしまうっていう生活力はすごいよね。

Natsuko: そうですね。確かに。

ササキ: それに、逆を言うと、まだ使えるものも平気で捨てている人たちに、そういう生活力はあるのか、って反省もさせられますね。

Natsuko: そうなんです、まさに、坂口さんは、その「生きるための建築」というのに魅せられたということなんでしょうね。坂口さんは、小さいころから、机と椅子のうえに毛布をかけて、隠れ家のようなものを作ったりしていたそうなんですけど、男の子って、そういう隠れ家を作るのが好きですよ。ササキさんもお経験があるんじゃないですか。

ササキ: あ～隠れ家ねえ。子供のころだと、隠れ家っていうよりも、秘密基地なんて、呼んでましたけど。たとえば、空き地とかで、木と木の間にダンボールで屋根を作って、そこにおもちゃとか持ち込んで、「宝物!」とか言って、遊んでましたね。

Natsuko: ああ、なるほど。そうですね。そうすると、そういうのもお金をかけていないけど、自分で工夫して作るという意味では、「0円ハウス」の一種かもしれないですね。

ササキ: そうですね。

Natsuko: 私は、隠れ家を作った覚えはあまりないんですけど、でも、やっぱり、こう、自分だけの空間みたいなものって、子供のころから居心地よく感じたりしますよね。

ササキ: あ、ありますね。

Natsuko: それから、先ほど、ちょっといいましたけど、坂口さんは、この「0円ハウス」っていうwebサイトを開設されているんですよ。このサイト、実は、英語のバージョンもあるので、これは、URLをコメントにのせておきますね。なので、皆さん、興味がおありだったら、ぜひご覧ください。

ササキ: ますます、坂口さんがどんな活動をしているのか、もっと詳しく知りたくなっちゃいましたね。Webサイトをぜひ、覗いてみようと思います。

Natsuko: はい。「0円で、自分が生きるために、自分の頭で考え、自力で作る家」。。。皆さんは、どんなことを考えましたか。ご意見を聞かせてください。それでは、今日はこの辺で。次回をお楽しみに。

ササキ: それじゃ、また!